



菊農SDGs宣言

竹資源を活用した持続可能な地域社会づくり



菊池農業高校SDGsプロジェクト班



1. 研究活動のテーマ設定の理由

<テーマ設定の理由>

放置竹林を整備し、きれいな竹林への再生と
食品・農業・環境そして地域活性化に貢献する。

▼ <放置竹林の課題>

①放置された竹林が野生動物の住処となり、地域集落をはじめ、私たちが生産した農産物への被害が増えてきた。



②放置された竹林は森林全体の治水機能を低下させ、豪雨災害の被害拡大の要因になっている。



③荒廃した竹林は地域の景観を損ねている。



【対象ゴール】



2. 研究活動の目標

<目標>

「竹」の資源として活用方法と消費を増やし、
「竹」の需要と「竹林」の価値を高める。

【食品】への活用

筍、幼竹（成長したタケノコ）の
商品化

- ・ たけのこ料理レシピの作成
- ・ 「干しタケノコ」に加工し、食材としての利用促進
- ・ 国産メンマとして飲食店での消費拡大

15 陸の豊かさも
守ろう



【環境】への活用

バイオ竹炭としてカーボン
ニュートラルに貢献

- ・ 竹チップくん炭の製造と農地炭素貯留による、J-クレジット申請
- ・ 「クルベジ」として地域農産物のブランド化の推進

13 気候変動に
具体的な対策を



【農業】への活用

竹チップの発酵肥料の資材化

- ・ 安全、安心な作物の生産
- ・ 循環型、環境保全型農業の推進
- ・ ケイ素成分の投入増加による、作物の病害虫抵抗性の向上

12 つくる責任
つかう責任



【地域活性化】への活用

竹林を観光資源として利用

- ・ 竹林整備による景観の向上
 - ・ たけのこ掘り体験などへの活用
- 竹チップを生ゴミコンポストの資材として利用
- ・ 菊池市2万世帯に配布し、生ゴミの排出量と処理費用の削減

11 住み続けられる
まちづくりを



3. 研究活動の成果

1 地域との連携

菊池市、J A 菊池、菊池観光協会、N P O 法人、有機農業アドバイザーをはじめ、地域の農業生産者や関係機関との連携

2 広報活動

- ・ 菊池市や J A 菊池の広報紙等を活用した地域への情報発信
- ・ 新聞や報道関係機関に取り上げてもらうことで県内外への情報発信
- ・ 学校ホームページや SNS による世界への情報発信

3 取組活動の積極的な報告や発表と評価

学校農業クラブ発表会、各種コンテストに積極的に参加し、地域の方や専門化の方々に審査、評価していただき、活動の充実を図る。



【NPOによる竹伐採指導】



【報道機関における取材】



【広報紙での掲載】

4. 今後の目標と課題

地域の環境保全と地域経済の好循環が生まれ、持続的な発展が可能となる！



【食品】への活用

- 食材としての幼竹の商品価値が生まれる。
- 竹林の荒廃の原因にもなっていた、放置タケノコ（幼竹）が減る。

【農業・環境】への活用

- 竹チップとしての活用方法が増えることで、竹の需要が高まる。
- たけのこ生産やJ-クレジット制度により農家収入が増加する。
- バイオ竹炭により気候変動の抑制に貢献できる。

【地域】への活用

- 地域の景観が改善され、農業体験や民泊などへの活用により、観光資源としての価値が生まれ、地域経済が活性化する。
- 生ゴミコンポストの普及で、年間1万本の需要が生まれる。
- 家庭生ゴミが削減され、処理施設の負担や処理費用が軽減された分、教育や福祉関係の予算が充実する。